

令和6年度やまぐち元気生活圏づくり協働支援事業

## 中山間地域づくり 実践者のつどい

NPO 法人市民プロデュース

〒753-0074 山口市中央3-6-1-2F

TEL 083-932-4919

FAX 083-932-4929

Email shiminproduce@gmail.com



日時：2024年10月1日（火）13:00～16:00

場所：山口県総合保健会館 第一研修室

参加人数：62名

10/1（火）、山口県総合保健会館にて「中山間地域づくり 実践者のつどい」を開催しました。阿武町福賀地域、美祢市厚保地域より、地域の暮らしを守る活動に取り組んでおられる団体の皆さまに活動をご紹介いただきました。後半のパネルディスカッションでは、地域や活動への思いについて、より深くお聞かせいただきました。ありがとうございました。

## 活動紹介 暮らしを守る取組を自分たちの手でつくる

## 福賀コミュニティ交通ふくすけ便【阿武町福賀地域】

- ・2020年3月「福賀の暮らしを考える会」発足。生活の足の確保を目指し、行政とも連携しながら話し合いや視察等の活動を重ねる。2021年9月「福賀コミュニティ交通ふくすけ便」を立ち上げ。
- ・町からの委託として運行開始。コンパクトカーによるデマンド型交通として、毎日6時から20時まで運行。
- ・福賀地区をモデルに、町内の他2地区でもデマンド交通の運行開始。
- ・課題はオペレーター、運転手といった担い手の確保。特に将来的なオペレーションの体制・仕組みは他地域との統合・連携の可能性も含め検討する。
- ・地域の課題解決の取組は、必要性が語られることはあっても動き出すことが難しい。今回は「自分がやってやろう！」という人が現れたことで話が進み、協力者も出てきた。



## NPO厚保っ子サポーターズ【美祢市厚保地域】

- ・活動のきっかけは、地域内の子どもが減少し、小学校が存続の危機を迎えたこと。
- ・地域内にある空き家を活用し、子どものいる世帯の移住を支援する活動を始める。
- ・住宅のあっせんはできないため、移住希望者と業者や家主をつなぐ役割を担っている。
- ・空き家の片付け・整備、独自の移住支援補助金をはじめ、移住者が安心して地域で暮らせるよう精神面でもサポートしている。
- ・地元住民がボランティアとして活動に参画。
- ・活動継続のターニングポイントは、初年度に移住者を迎えることができたこと。小さいながら実績が生まれたことで続けられる自信につながった。
- ・課題は、空き家を見つけること。多数存在してはいるが、移住者が使える空き家が少ない。



トーク  
セッション

課題から価値への転換  
暮らしを守る『一手』をひもとく



会長 田中 敏雄さん  
福賀コミュニティ交通  
ふくすけ便  
【阿武町福賀地域】



副会長 木村 厚さん  
福賀コミュニティ交通  
ふくすけ便  
【阿武町福賀地域】



事務局長 横山 知玄さん  
NPO厚保っ子サポーターズ  
【美祿市厚保地域】



副理事長 高須 修三さん  
NPO厚保っ子サポーターズ  
【美祿市厚保地域】



Q. 活動をどのように始められましたか？

- 原点は、地域のためになることをしたいという思い。暮らしてきた地域が寂れていくのは心が痛い。地域の活性化は、暮らしてきた人は常に考えている。そんな中で木村さんが「俺がやろう」と言ってくれた。最初に手を挙げることは勇気のいること。どの地域でも、やろう！という人が手を挙げられたらみんなついていくと確信している。
- 誘われたときに明確な目的があったので、断る理由が見つからなかった。自分にも手伝えることがあるし、信頼してもらっていると感じたので引き受けた。相応しいメンバーを誘ってほしいというミッションをもらい、仲良しクラブにしたくなかったので、活躍してもらえる人、約束が守れる人を誘った。スタートアップにおいては、よく話し合いができることが大事。会の活動を進めるにあたって必要なメンバーを具体的にイメージした。

Q. どのような人や団体・組織と協働しながら活動されていますか？

- 地元の人だけで活動の継続はむり。地域外に参加したいと思える人が増えること。地域に足を踏み入れて「良かった」という記憶を残してもらう。
- 旧態の組織は安心感があるかもしれないが、物事を動かそうとしても動かない。思いのある有志が任意団体として始めた。それを行政が取り上げて後押ししてくれたからできている。思いをもっている人の声を十分に大切にしていくことが、今までのムラ社会とは違う新しい社会をつくっていくことになるのではと考える。
- 一人ひとりがどういう生き方をしたらいいか、地域のために何ができるか。大きなことをやろうとしてもできない。自分ができる範囲のことを実践する。それから、仲間づくり。いかにつながりを持つか。地域で盛り上げていくという意識を持つことが大切。
- 地域の中で声をかけあうこと。年代によって考え方は違う。意見が違うのは当たり前。（地域が）こうなるといいね！という話をし続けること。1人でやっているのは、ひとりよがりになってしまう。自分の姿を見せつつ話をすることで次の世代につながっていく。
- 自分のやりたいことをやっていったら、必ず後輩が姿をみている。反対する人は「そんなことをして、どうやって続けるんだ？」と言う。いかにも先のことを考えているように見えるが、止める方向に思考してしまう。思いを持った人がいても潰れてしまう。次の若い世代が郷里に誇りを持つようになれば、先輩がやっていることを引き継ぐ必要があると考えるようになっていく。今とにかくやれることをやっていく。